

# まほろば



## 病院の理念

生命と人権を尊重し、良質かつ適切な医療を行います

第105号

2010年4月発行

## 【リスクマネージメントフォーラム】

2月17日、今年で第9回となるリスクマネージメントフォーラム、「私たちの医療安全～成果を学ぼう～」が開催されました。17時45分より2時間余りの企画にもかかわらず、101人の職員の参加があり、大会議室は何とも言えぬ熱気に包まれました。

「これからどんな発表があるか楽しみ」と佐藤院長の挨拶を皮切りに、3分の時間制限の中、17部署からの発表がありました。各部署が専門的な危機感を感じ、取り組んだ成果を聴いているうちに、安全な医療の提



供という目標に向かって、一つに集結した弘前病院のパワーを感じました。また、医療安全クイズ大会では、他職種の垣根を超えて協力し合う姿に、医療のあるべき姿が重なりました。

柿崎副院長の終りの挨拶で「一つ一つの積み重ねてきたことも、何かあると台無しになってしまう」という言葉が深く残りました。フォーラムで発表した一つ一つの成果を大切に積み重ね、安全な医療を目指していきたいと感じました。

南病棟副看護師長 上野 恵美

## 「津軽の手仕事－こぎん刺し－」

今回は、津軽地方に伝わる伝統的な刺し子「こぎん刺し」をご紹介します。

「こぎん刺し」は、青森県南部の「菱刺し」、山形県庄内地方の「庄内刺し子」とともに、日本三大刺し子のひとつに数えられています。大きな特徴は、布の縦の織り目に対して奇数の目を数えて刺すこと。津軽では、農作業に着ていた着物を「こぎん（小布・小巾）」と呼んでいました。その着物に糸を刺したことから、「こぎん刺し」と呼ばれるようになったそうです。模様や刺し方によって、弘前城から見て西（弘前市～中津軽）で刺された「西こぎん」、東（南津軽）で刺された「東こぎん」、三本の縞が特徴的な「三縞こぎん」（西津軽・北津軽）の3つに分類されます。

津軽は、綿栽培に不適な気候のうえ、1724年（享保9年）に出された「農家僕役分限令」により、農民は仕事着や普段着で木綿を使用できず、麻布を重ねて麻糸を刺した衣服を着用していました。麻布の目が粗く保温性に乏しかったため、糸で布目を埋めていくことで保温効果を得、また、細かく刺すことで布を補強し、農作業で背負う重い籠の摩擦から衣服を守っていました。明治に入り、木綿糸が手に入りやすくなると、藍



色の麻布に白い木綿糸で、様々に工夫された模様を競って刺すようになりました。

こうして残された着物は、昭和の初め、柳宗悦の「民藝運動」で注目され、高い評価を受けました。現在は、色とりどりの糸や布で応用され、手芸として親しまれています。

さて、この津軽の伝統的な手仕事である「こぎん刺し」、当院で間近に鑑賞することができます。外科外来付近の廊

下に、拓光園次長三浦紀美子様から寄贈されたたくさんの素晴らしい作品が常時展示されています。この度、その作品に「ピンクリボン」が新たに加わりました。乳癌の撲滅、検診受診の啓蒙・推進を目的とした世界規模の運動のシンボルである「ピンクリボン」。三浦様の作品によって、当院における乳癌に対する意識も更に向上するものと思っております。

入院係 工藤 真淑

## ☆BFHだより☆「良い母乳育児は良いお産から」～両親学級(たまびよ)～

母子医療センターでは母親学級の他に月に1回第4土曜日に両親学級を開催しています。両親学級は立ち会い分娩を希望されるご夫婦が受講しています。

分娩に立ち会いたいという夫の他に、妻にせかされて受講したが立ち会うかどうかは決めていないという人や、お腹に5kg位の重りを付けた妊婦体験ジャケットを夫に着せてみたくて、という妊婦さんもいて動機はさまざまです。



実際には4割位の方が立ち会い分娩をされています。立ち会ったご夫婦からは「タイミング良く立ち会いができる、夫婦共に満足しています。夫は自信がついたようで、早速育児にも協力的で心強いです。できれば次も立ち会い分娩を希望します。」というお話しを聞くこともあります。

このように立ち会うことによって、入院中から育児に参加するお父さんの姿が多く見受けられるようになってきています。

母子医療センター助産師 斎藤久美子  
助産師 小野 雅子

## 市民講座 「歯周病と糖尿病」

今回の市民講座は「歯周病と糖尿病」について、青森県保険医協会研究部会のお二人の歯科医師による講演でした。まず工藤淳治先生から、歯周病とはどのような病気か、なるとどうなるか、歯周病をどのように治療するか、ならないためにどうするか、といったお話がありました。次いで八木橋靖子先生から、歯周病と糖尿病の関係についての説明があり、医科歯科連携によって治療を進めることの重要性が話されました。

歯周病は歯周病菌による歯周ポケットの感染症で、歯を失う危険と細菌やその毒素による全身症状への影響の危険を持っているとのこと。そして、糖尿病があると歯周病になりやすく、また歯周病があると糖尿病



を悪化させるので、歯周病を治療してこの悪循環を断ち切れば糖尿病の改善も期待できるとのことでした。

「病気に対して様々な視点から取り組むことで、一人ひとりの健康を支える」、今回のお話で、医療をめぐる状況が治療と疾病予防の面でまた一步前進したことを感じました。それにしても、歯周病は、何と言っても、ならないように定期的に歯医者さんのチェックを受けることが大事なようですね。

臨床研究部長 泉井 亮

## — リンクナース委員会 —

「感染対策ベストプラクティス」って知っていますか？感染対策の視点で考えたもっとも良い看護実践の方法をいいます。リンクナース委員会では、その活動報告会を2月24日、3月24日に開催しました。

今回は現場の意見を反映させ修正し使いやすく改善した部分や、どのように遵守されているかなど当院オリジナルで作成したベストプラクティスのその後と1年間のリンクナースの取り組みを発表しました。各部署での遵守率調査で下がっている項目に対してはその根拠が理解でき実践できるよう学習会



や自己評価をして遵守率向上が図られていました。

また全職員に働きかけ、「正しい手指衛生の方法」を身につけ実施する活動も行いました。新型インフルエンザの流行など、患者様の感染予防に対する意識は高くなっています。

すべての職員が適切なタイミングで感染予防行為をすることは患者様を無用な感染から守り「安心と満足していただける看護」を提供させていただけることと考えます。



外来B看護師長 谷山 静香

## 平成21年度青森県合同輸血療法委員会講演会が開催されました

2月23日(火)に青森県合同輸血療法委員会主催の講演会「適性かつ安全な輸血療法の実現を目指して」が当院で開催されました。合同輸血療法委員会は血液製剤の使用状況の把握、適正な輸血療法に関する知識の普及・啓発、適正輸血についての研究を行っています。

講演会では、まず、研究者代表の立花直樹先生（青森県立中央病院輸血部長）から、限りある血液資源が有効にかつ安全に使われることを目的にした青森



県合同輸血療法委員会の活動が紹介されました。次いで、秋田県赤十字血液センター長 面川進先生が基調講演「輸血医療の実態—合同輸血療法委員会の調査からー」をされ、適正輸血療法への取組みの先進県である秋田県での実情や課題を話されました。

最後の弘前大学附属病院輸血部副部長 玉井佳子先生司会の質疑応答では、血液の運搬方法など具体的な問題に対して各病院での対応や実情が披露されるなど、活発な意見交換が行われました。

委員会によるこのような地道な活動によって各医療機関の輸血医療が支えられていることが分かりました。

臨床研究部長 泉井 亮

# 外来診療一覧

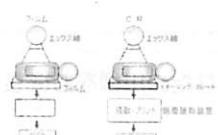
◆外来医師診療一覧表 (2010年4月1日現在)

診療科	区分	月	火	水	木	金
循環器内科		人見博康	人見博康	人見博康	人見博康	人見博康
呼吸器科		山本勝丸	中川英之	中川英之	山本勝丸	中川英之
消化器・ 血液内科		太田健	週毎に交替で担当 ①吉谷/松木 ②松木/太田 ③太田/吉谷	太田健	太田健	-
		吉谷元		松木明彦	吉谷元	松木明彦
		佐藤年信	-	佐藤年信	-	佐藤年信
小児科		三上珠希	野村由美子	杉本和彦	野村由美子	野村由美子
		杉本和彦	佐藤工	三上珠希	佐藤工	杉本和彦
外科		田澤俊幸	高橋克郎	横山昌樹	横山昌樹	三上勝也
		三上勝也	三上勝也	田澤俊幸	高橋克郎	横山昌樹
整形外科	午前	柿崎寛	柿崎寛	秋元博之	秋元博之 又は 大鹿周佐	柿崎寛
		大鹿周佐		大鹿周佐	能見修也	秋元博之
		田中直	佐々木規博	-	-	柿崎寛
脳神経外科	午後	-	-	-	-	-
				木村正英	-	-
皮膚科	午前	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲	熊野高行	熊野高行
		佐藤正憲	熊野高行	熊野高行	佐藤正憲	佐藤正憲
		●予約	●手術/検査	●予約	●手術/検査	●予約
泌尿器科		大和隆	大和隆	大和隆	大和隆	大和隆
		真鍋麻美	片桐清一	真鍋麻美	●妊婦検診 (一般外来休診)	片桐清一
産婦人科		柞木田礼子	小笠原智香	小笠原智香	(一般外来休診)	柞木田礼子
		蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義	蒔苗順義
眼科		黒田令子	黒田令子	●手術 (一般外来休診)	黒田令子	黒田令子
		二井一則	二井一則	二井一則	二井一則	二井一則
放射線科	診断	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄	佐々木幸雄
	治療	-	-	川口英夫 (午後)	-	-
女性専用外科		杉本菜穂子(※予約制/第1・第3火曜日午後診療)				
セカンドオピニオン		-	-	-	今充	-

※ 学会、出張などにより担当医師が替わる場合があります。

## 【シリーズ】診療放射線科 一般撮影部門

当院では、遅ればせながら撮影系のデジタル化が進み、一般撮影の殆どがデジタルX線画像処理装置(CR)で撮影後画像処理が行われています。アナログエックス線写真はからだを透過したエックス線を直接フィルムに当て、それを現像することにより写真ができる仕組みでした。CRではフィルムの代わりにIP(イメージングプレート: Imaging Plate)と呼ばれ



るエックス線エネルギーを記録するプレートにエックス線を当てます。このプレートに記録されたエックス線エネルギーを画像読取装置という機械で読み取り、コンピューターで処理して画像化します。

そしてこの画像をフィルムにプリント(印刷)してエックス線写真が出来上がります。

診療放射線技師長 長尾 真人



## ☆卒業式を終えて☆

3月2日に看護学校講堂にて55回生の卒業式が行われました。式には青森病院の和賀院長はじめたくさんの方々や、保護者の皆様に出席いただき、卒業生38名一人ずつに佐藤校長から卒業証書が授与されました。



在校生からのお祝いの言葉に続き、卒業生代表の荒川千明さんが「正面から患者様と向き合い、患者様の気持ちをとらえて医療に関わっていける看護師を目指し、胸を張って第一歩を踏み出します」と誓いました。

55回生の進路は36名が就職、2名は大学編入とそれぞれ違いますが、3年間で培った看護観と卒業式での決意を忘れずに、一歩ずつ歩んでほしいと思います。

これまで55回生を支えて下さいました皆様に心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。



看護学校教員 3学年担任 加藤 亜衣子

## ☆病院食で『支那そば』に挑戦します!☆

以前、この紙面をお借りして、新メニューの取り組みや裏ばなしなどを紹介させて頂きました。今年度も栄養管理室は、目的をもって“入院患者さん”に喜ばれるメニューの企画と提供に努めます。特に、当院自慢のみそラーメンを凌駕しなければならないプレッシャー・食材費予算・ヒトの動き。そして、何よりも食する患者さんの試行を第一に捉えた時、自ずと答えが見えました。

それは、『支那そば』です。焼き干しベース醤油味に細めん!シンプルな料理ほど、奥が深い。しかし、幾度となく試行しても簡単にメンがノビてしまう。どんなメンでも10分が限度という現実にみんなの心が折れそうになります。

そんな折、直接製麺工場の取締課長さんと工場長さんと協議する機会があり、また試供品の製造を再開して頂けることになりました。

ただのノビないラーメンは作れます。でも、ラーメンの味が損なわれます。病室の端まで提供するには、最大で20分はのびないラーメン!そして、ラーメン本来の味で細めん!妥協はできません。試行錯誤は続きます。でも、期待してください。



津軽のラーメンは支那そばだから!  
栄養管理室長 篠島 良介

## 【ふるさと紹介】— 大阪府河南町 —

私のふるさとは大阪府南河内郡の河南町というところです。大阪府の南東部に位置し、大阪市の中心部から25km圏にあります。家の近くには畑やたんぽなどがあり、米の収穫時期には畠周辺は小麦色に染まります。河南町の地形は、金剛・葛城山脈に連なる山地部とその前面に広がる丘陵地、断丘地からなり、町域の3分の1の山地部が金剛生駒紀泉国定公園に指定されています。



また、古くから開けたこの地には、史跡金山古墳公園、弘川寺(海棠)、弘川寺歴史と文化の森、近づ飛鳥風土記の丘、近づ飛鳥博物館などの、さまざまな古墳、遺跡などの文化財があり、自然と歴史に恵まれた緑豊かな文化の町です。

また、毎年秋に豊年を祝いだんじりを曳行する秋まつりは、現在でも地域の伝統行事として大切に引き継がれています。特に近年は複数地域のだんじりを一堂に集める等の取組が進められていることもあります。だんじりの美しさや威勢のよさを見物に近郊から訪れる人が多く、大変なにぎわいをみせています。

ぜひ皆さんも機会があればだんじりの時期に遊びにきてください。

母子医療センター看護師 桑鶴 真利

## 【今月の川柳】

★ [川柳募集] あなたの川柳をお待ちしています。

金色の 朝日に治療を 励まされ

(ふたご座)

お医者さん まごごろこめて 診察に (いつき11歳)

※掲載作品は広報誌編集委員会で選出したものです。

## お知らせ

※毎月、第4水曜日地域医療研修センターにおいて、当院職員による市民講座を開催しております。参加は自由ですので、ぜひ参加下さい。

次回は、4月28日(水)午後5時40分からの予定です。

### ◆ 患者相談窓口

『患者相談室』のMSW(メディカルソーシャルワーカー)が対応していますので、ご気軽にお尋ね下さい。